



しまだ さとる 島田 敏 さん (海老ヶ島)

はじめて見つけたときは「田んぼに金魚の群れが泳いでいる!」とびっくりしました。



県西地域に 広く分布



多く目撃される地域

田植えも終わり、ほっと一息をつく6月ごろ、田んぼの片隅でゆらゆらと泳ぐエビのような姿をした不思議な生き物を見たことはありませんか。
尻尾は赤色、体は緑色、大きさは1.5〜2cmくらいのこの生き物は、

今年 は豊年満作!? 田んぼの妖精“ホウネンエビ”



ウネンエビ」という名前で、本市を含む県西地域で広く確認されています。どんな生き物なのか興味を持ち、ホウネンエビの生態について詳しい茨城県自然博物館の池澤広美さんに話を伺いました。

不思議な生態

「ホウネンエビ」は英語ではフェアリーシュリンプ(妖精エビ)、日本語では豊年エビと呼ばれます。大発生する年は米が豊作になると言い



©ミュージアムパーク茨城県自然博物館

あおむけになって泳ぐホウネンエビ (上:オス 下:メス)



説明されていないことを、地道なフィールドワークで明らかにしていくことの大切さを話す池澤さん

伝えられ、江戸時代には縁起物として金魚屋さんが売っていた記録もあるようです。「実は、エビと呼ばれていてもエビではなくミジンコと同じ仲間です。ミジンコは、乾燥した卵の形で何年も生きることが出来ます。ホウネンエビも同じように、田んぼに水が張られ水温が上昇すると親になり卵を産んで2週間程ですぐにいらなくなってしまうです。その卵は、卵のまま一年を過ごした後、6月ごろに田んぼに水が入るとふ化します。そのため田んぼで観察できるのは実に2週間から1か月程度なんです」と池澤さんが熱く解説してくれました。

ホウネンエビに

出会えそうなおとろろ

ホウネンエビは地下水を汲み上げて水を張る陸田や、麦を育てた後の田んぼなどで、6月半ばごろに発見される傾向にあり、1年中水がある

池などでは見つけることはできません。また不思議なことに、同じ生産者の隣り合った田んぼでも、片方には生息していて、もう片方にはいないこともあるようです。

取材を終えて

取材の中で、池澤さんの「いろいろな場所に珍しい生き物はいませんが、自分の住んでいる地域にも、おもしろい生き物があるんだと気づいてほしいです」という言葉に、普段見ている何気ない景色の中にも、意外な発見や学びが潜んでいると改めて感じました。

一昨年、朝の散歩の途中にホウネンエビに出会い、すっかり魅了されました。どうやら、私たちの住む筑西市には、まだまだ知らない不思議なことがたくさん隠れているようです。みなさんも身近な田んぼで探してみてはいかがでしょうか。

※田んぼは私有地ですので、許可なく入らないように注意してください。

ホウネンエビが動く様子はこちら

